

熊田嘉膳の軌跡 ココがすごい！

彼が町内外で果たしたさまざまな功績を知れば、
きっと皆さんも彼に大きな誇りを
感じるに違いありません。
その代表的な功績を3つご紹介します！



3 三春の学校教育の礎を築く

戊辰戦争終結後、熊田は教育の分野で三春に大きく貢献します。藩校（講所）で漢学の教鞭を取り、明治4年の廃藩置県により藩校が廃止されると、その翌年には藩校の跡地を利用して養才義塾（ようさいぎじゅく）を開設。さらに明治5（1872）年、すべての国民が小学校に就学することを原則とした「学制」が発布されると、養才義塾が現在の三春小学校にあたる温知（おんち）小学校へと移行され、熊田はその初代学校長となりました。その後も、田村郡独自の中学校を作るべく奔走し明治15（1882）年に田村郡立田村中学校を開校させるなど、三春における学校教育の礎を築きました。



1 水戸藩で反射炉の建設を主導

熊田は幕末、諸藩の藩士とともに西洋の兵法や武器製造の知識を深めました。そのなかの一人が、水戸藩9代藩主・徳川斉昭（とくがわなりあき）の最側近で吉田松陰や西郷隆盛にも大きな影響を与えた思想家・藤田東湖（ふじたとうこ）です。海に面した水戸藩では海防強化のために大砲の配備を急務ととらえ、その製造に必要な反射炉の建設を計画。藤田は反射炉の知見を持つ熊田を招き、5年の歳月をかけて那珂湊反射炉を完成させました。全国に数例しかない反射炉建設に不可欠な人物として招かれたことは、熊田の知識の豊かさ、新しさを証明するものです。

2 三春城無血開城の立役者

戊辰戦争時、三春藩は東北諸藩にならい、会津藩と共闘する奥羽越列藩同盟に加わります。しかし、藩内では新政府軍との戦いに異を唱える声も強く、やがて恭順を決断。その意志を朝廷に直接伝えるべく京都に遣わした2人の使者のうちの一人が熊田でした。このとき熊田は朝廷より、「戦の際には官軍に加勢するように」と書かれた勅書を持ち帰りました。領民の命や暮らしを守った無血開城。その道筋をつける極めて重要な役割を果たしたのです。



▶表紙について…三春小学校の校門「明德門」をくぐって校舎へ向かう子どもたち。講所の表門を移築したもので、三春町指定文化財（建造物）に登録されています。



1. 熊田嘉膳（田村市教育委員会提供）。
2. 熊田が葬られている天澤寺（清水）。
3. 北野神社（北町）の境内には熊田嘉膳の顕彰碑が建っている。
4. 熊田が建設に携わった那珂湊反射炉（茨城県ひたちなか市：昭和12年復元）。ここで造られた大砲は幕府にも献上されたという。
5. 熊田が水戸藩から拝領した水戸藩編さんの『大日本史』。那珂湊反射炉建設への尽力に対して贈られたもので、箱の蓋にはこの2つの箱と白銀を賜ったことが書かれている。

高い好奇心